

2025 年度東京海洋大学海洋生命科学部海洋政策文化学科  
総合型選抜(専門学科・総合学科卒業生) 小論文② 問題用紙 (1/1)

2024 年 9 月 27 日

※ 解答は解答用紙の所定の欄に記入すること  
問題用紙は持ち帰らないこと

受験番号	氏名

以下の4つの問題のうち、2つを選び、解答しなさい。

問1 食中毒のうち、有毒な動植物による自然毒食中毒について説明したうえで、具体的にどのような食中毒があるのかについて述べなさい。

問2 「シチズンサイエンス」とは、職業科学者ではない一般の市民によって行われる科学的活動を指す。シチズンサイエンスにおいて市民は、たとえば環境や生態系に関する問題の解明や社会課題の解決に取り組むのだが、その取り組みは、学問体系における科学的規範に則った知識生産も包含する、より広範な科学的活動とされている。すなわち、一定の目的・方法のもとに種々の事象を研究し、その成果としての体系的知識を増やす活動が、シチズンサイエンスには含まれる。また、シチズンサイエンスは、しばしば職業科学者との協調により、もしくはその指導の下で行われ、世界的に拡大しつつある。歴史的には鳥類学、天文学などで行われ、現在では、気象観測や多様な生物の観察のほか、哲学、言語学、民俗学、考古学、地理学など多岐にわたる学問分野で行われている。

(1) 海洋・沿岸の環境や生態系にかかわるシチズンサイエンスとして、どのような市民の活動が考えられるか。対象となる事象や生物などをひとつだけ挙げて、それにかかわるシチズンサイエンスの活動について具体的に述べなさい。

(2) (1) をすすめるうえで、どのような課題があると考えるか。その課題を明確に述べてから、それについてのあなたの考えをくわしく述べなさい。

問3 日本列島周辺の海では、各種の海藻が採取され、古来より食用のみならず、肥料や薬品など様々な用途で利用されてきました。特に近年、海藻は、持続可能性の観点からも注目されています。そのような観点からの新たな海藻の利用について、具体例をひとつ挙げ、詳しく説明しなさい。

問4 日本の漁業就業者数は、2013年の180,985人から2022年の123,100人まで一貫して減少傾向にある。この間の年別の新規漁業就業者数は、年によって違いがあるものの1600~1900人台で推移している。今後、新規漁業就業者数を増やすために政府や漁業関係者がどのような対策を講じるべきか、あなたの考えを述べなさい。